

市長記者会見記録

日時：2015年4月21日（火）午後2時～午後2時25分

場所：本庁舎2階 講堂

議題：市政一般

（話題提供）幸区役所新庁舎のオープンについて（幸区役所）

<内容>

（幸区役所新庁舎のオープンについて）

司会： ただいまより、定例の市長記者会見を始めさせていただきます。本日は、市政一般となっております。

初めに、市長から、幸区役所新庁舎オープンについて話題提供させていただきます。

それでは市長、よろしくお願いします。

市長： こんにちは。よろしくお願いします。

まず、幸区役所新庁舎オープンについてでありますけれども、平成25年4月に着工いたしました幸区役所新庁舎がこのたび完成し、平成27年5月7日に業務を開始いたしますので、お知らせをしたいと思います。

新庁舎は、区民に親しまれ、快適で利用しやすい区役所づくりをコンセプトの1つとして、高齢者をはじめ障害のある方、お子さんをお連れの方にも安心してご利用いただけるよう、ユニバーサルデザインを推進しております。

新庁舎の特徴といたしましては、自然エネルギーの有効活用や省エネルギー化を図り、地球環境にも配慮した庁舎となっております。また、防災拠点としての機能を強化させるために、免震装置などを取り入れています。

快適な空間づくりといたしまして、1階には地域コミュニティの拠点となる市民活動コーナーや、市政情報展示コーナーがあるロビーハナミズキを設置しています。

3階には、キッズルームを設け、予防接種や各種手続の待ち時間に保護者と子どもと一緒に過ごすことができるスペースとなっております。

4階には、誰でも気軽に利用できる休憩スペースとして、飲食ができるラウンジヤマブキを設置しております。なお1階のロビー、4階のラウンジの名称は、幸区の木「ハナミズキ」、区の花「ヤマブキ」から命名しております。

また、幸区役所新庁舎の供用開始に合わせまして、幸市民館に「喫茶つくし」を同時オープンいたします。

この喫茶室は、障害者就労支援施設運営事業として「社会福祉法人ともかわさき」が運営いたします。障害のある方の就労の場、活動の場としてだけでなく、市民の憩いの場となることを期待しております。

最後になりますが、4月30日に新庁舎完成記念式典を開催いたします。式典終了後に記念コンサートや見学会を行いますので、皆さん、ぜひご参加いただきたいと思っております。

私からは、以上です。

司会： それでは、質疑応答に入ります。市政一般の質疑とあわせて質疑応答をお願いしたいと思います。

では幹事社さん、よろしくお願いたします。

幹事社： よろしくお願いたします。

市長： よろしくお願いたします。

幹事社： まずは、区役所新庁舎オープンおめでとうございませう。私、幸区民なのでよく行っていたんですが、相当ここは古くなっていて、新しくなって非常に利用しやすくなると思うんですが、一方で、幸区役所がどこの駅からも遠いのでなかなか行きづらいというのがあるんですけども、こういう交通アクセスの面については、今後どういう具合に考えていかれますでしょうか。

市長： 交通アクセスですか。ちょっと、あの位置はどうにもならないので、駐車スペースも十分確保したり、そのような工夫は行わせていただいておりますけれども、はい。

幹事社： 例えば、市バスの運行を考えると、駐車スペースをもうちょっと広げるとか、旧庁舎の活用についてとあわせて、そこら辺の考えがあればなんて思ったんですけども。

市長： 工事で、段階的にではありますけども、駐車場も大きく整備していくということですので、ちょっとアクセスが悪い分、フォローしていきたいというふうに思っています。

幹事社： ちなみに、旧庁舎は何になるんですか。

市長： それは、取り壊します。

幹事社： その後は。

市長： 駐車場になる。

幹事社： 駐車場に。

市長： はい。

幹事社： すみません、太陽光発電パネルというのは、ここに説明が、写真があるのでわかるんですけど、地中熱利用のエネルギーというのは、申しわけないです、ちょっと解説いただいても。

市長： どなたか、担当者は来てますか。

幸区役所総務課長： 地中熱につきましては、1階待合スペースの空調設備の熱源とというような形で利用させていただくということになっております。

幹事社： どんな感じにとるんですかね、地中熱。ちょっとイメージが湧かないんですけど。

市長： すみません、後ほどでよろしいでしょうか、ご説明させていただきます。

幸区役所総務課長： はい、調べまして。申しわけございません。

幹事社： 各社さん、幸区役所で何かありますか。

記者： 区役所の整備というのは、幸区役所の前はどこで。中原だったんですか。

市長： えーと……。

記者： あと、例えば、老朽化していて、次に建てかえの予定があるとかいうのは、予定はあるんですか。

市長： すみません、前回の記憶が私はないので、誰か、担当の者、おりますか。

司会： 後ほど担当のほうから。申しわけございません。

（統一地方選挙の結果について）

幹事社： ではすみません、市政一般ということで。

先日、川崎市議会議員選挙が行われました。特徴的だったのは、共産党と自民党さんが議席を増やし、維新が8人擁立して1人。残念ながら、市長と近いとされている「新しい川崎の会」の方が、4人擁立してお1人となってしまったんですけども、今回の市議選をですね、まず、全体を通して市長としてはどういう具合にお受けとめられますか。

市長： これは選挙前にも言っていたことですが、とにかく投票率が気になっておりましたけども、前回からもさらにちょっと下回ったということは、非常に残念に思いました。

議席のことについては、特にコメントはありませんけども。

幹事社： 市長の持論としては、与党も野党もないというようなことを常々おっしゃられていたんですけども、とはいえ、前回の市長選のときに対立候補の方を応援された方々が議会の大勢を占めて、今回さらにその数が増えるというような形になったと

思うんですが、議会運営においてやりにくさというか、そういったことはお感じになられませんでしたかね。

市長： いや、今までにもそういうことを特に思ったことはないですし、これからはないというふうに思います。真摯に議会と対話、議論をしていきたいというふうに思っています。

（聖マリアナ医科大学病院の精神保健指定医資格不正取得について）

幹事社： はい、わかりました。

もう1つ、全く違いますけど、聖マリアナの指定医の不正問題なんですけども、会見をされた坂元医務監は、近く報告を求めるといような話をされていました。ご案内のように、多摩病院の指定管理者でもあり、市から政策的に交付金を出していらっしゃるだとか、色々と市とつながりが深いところですけども、まず、この事件を改めて……、コメントを出されていましたが、どういう具合にお受けとめになられるかということと、それから、指定管理とか交付金のあり方も含めて、今後、聖マリ側にどういったことを求めて、どのようなご判断をされていくご予定というか、お考えか、聞かせてください。

市長： ちょっと、議論を2つ分けなくちゃいけないと思うんですが、指定管理の話と今回の医療法の部分というのはしっかり分けて議論しなくちゃいけないというふうには思っています。今回の医療法に基づく違反ということについては、精神保健指定医というのは、精神障害を持つ方々の人権に深く関与する資格でありますから、その資格が取り消されたということは大変残念に思いますし、遺憾に思っております。一刻も早く信頼回復できるように聖マリアナには努めていただきたいというふうに思っております。

幹事社： 市側から、その会見の段階では、1カ月をめどに報告を求めるといような話をされていたんですが、市長名での報告と再発防止策のようなのというのは、もうお求めになられているんですかね。

市長： いえ、再発防止策というよりも、これからでありますけれども、調査というものを……。国のほうでも23日までに調査報告を出すようになっていると思いますが、今後、川崎市としても聖マリアナに対しての調査、そして報告を求めていきたいというふうに思っています。

幹事社： 以上です。

（統一地方選挙の結果について）

幹事社： すみません、先ほどの市議会議員選挙の件なんですけれども、今、ちらっと触れられましたけど、「新しい川崎の会」が、明らかに政治団体として福田さんの政策を応援するというふうに明確に言われていて、それで現職2人、新人2人。それで現職の1人の方はトップで当選された。ただ、もう1人の現職の方は落選された。それで、残りの新人の方も落選された。これは、ちょっと解釈を拡大すると、福田市政の政策を批判、否定的に考えている方がいらっしゃるという、そういうような受けとめ方というのは、市長としては、その辺の解釈はどのようにされておられますか。

市長： いや、繰り返し私も申していますが、私がその会派を応援しているわけでもありませんので、何というんでしょう、その中の個人という形では、2人、私、これまでも明言してきたとおり応援させていただきましたけども、今回の選挙を見て、やっぱり何というんでしょう、しっかりと地域に入って地道に活動されている方というのは、しっかり、やっぱり党派を問わず受かってきているんじゃないかなというふうに思っています。つまり、地道な活動というのは、やっぱり市民はしっかりと見ているんだというふうに思います。それができていないところが、やはり厳しい結果だったのではないかなという、そういう受けとめ方をしています。ですから、会派がどうのこうのというよりも、あくまでも個人の話ではないかなというふうには思っていますけれども。

幹事社： どうぞ、各社さん。

記者： 統一地方選の関連なんですけれども、今言ったように会派の問題というより個人という市長の意見はわかるんですが、全体的に、川崎に限らず、やはり既成政党というか、自民党、共産党……、先ほど言ったように共産党なりが、大きく、大きくというか、議席を伸ばしていたりとか、こじっかりと議席を獲得しているというのが各地域であるんですが、この辺の政治状況という、いわゆる第三極がちょっと沈んでいる、あるいはそういう無所属の方はなかなか難しいという形は、どういうふうに見てらっしゃいますか。

市長： そもそも、やっぱり国政の話になってしまいますが、第三極という言葉が使われていること自体に、私、若干違和感があって、第二極目もちゃんとないのに、第三極なんてあるのかというぐらいの感覚を私は持ってまして、どこが第三極なんだろうという、そういう感覚を持っています。ですから、あくまでも国政の話でありますけれども、そういう感じですかね。

記者： 自民党が、川崎市にしても15議席が19議席、1人亡くなっているので、

もともと16議席だったんですけども。という形で、自民党が各地域で議席を伸ばしているというのは、国政での安倍政権への支持というのが国民の中というか有権者の中に広がっているというふうに見られますか。それとも、地域地域で違うという。

市長： 僕はあまり……、若干は国政の支持率みたいなものが影響するとは思いますが、ローカル選挙、地方選挙において、そんなに国政のことが影響するのかなというのは、実は毎回言ってることですけども、懐疑的に見ていまして、それよりも、やはりそれぞれの個人の活動というのが市民に浸透しているか、していないかということなんじゃないかなと、個人的には思っています。

記者： 知事選の結果については、候補者は2人しかいなくて、投票率も、今年、先ほど言ったように40.72%と過去最低の投票率を記録しているんですが、知事選の結果についてはどのように。ご所感、ございますか。

市長： 知事選ですね。やっぱり、なかなか盛り上がらなかったですね。政策論争が進んだのかというと、そうでもないような気がいたしますし。

記者： 現職の黒岩知事が、主要政党相乗りという形になって、相手候補、共産党とある意味一騎討ちだったわけですけども、市長の市長選のときも、相乗り候補に対して、市長は、既成政党の相乗りについては非常に批判的な主張をされて選挙戦を戦っていましたが、相乗りについては何か、この知事選も含めて。

市長： 相乗りがいいか悪いかというよりも、やっぱり、なるべく選択肢は多いほうがいいとは思いますが。ただ、知事選みたいな大きな選挙になると、どうしてもやっぱり、何というんでしょう、候補者になること自体が相当大変だと、現実的に考えても……、ということを見ると、現実問題として致し方のないことなのかなというふうには思います。

幹事社： 今の関連ですけども、知事選が終わった後に、林市長が黒岩さんのところに行って、おめでとうございますというような話をしていたやに報道で読んだんですが、福田市長は、黒岩さんとお話しになられたり、おめでとうメッセージを送ったりはしていますか。

市長： いえ。ごめんなさい、まだしてありません。

幹事社： お目にかかって……。

市長： ないですね、まだ。

幹事社： そうですか。

市長： そのチャンスに恵まれず。はい。

幹事社： 黒岩知事のほうから、受かりました、ありがとうございましたというよう

なことも。

市長： 特にございませぬ。はい。

幹事社： すみませぬでした。

市長： いえ。

記者： そうだ、ちょっとこれは全然あれなんですけれども、いい、悪いというのは僕はよくわからないんですが、市長が今回の市議選で2人の方の応援に行ったりしたというのはわかるんですけど、ほかの選挙で、僕がたまたま見た横浜市議選の事務所のため書きに、福田市長の名前でため書きがあった候補がいて、当選されている方がいるんですけれども、一応見ると、「川崎市長福田紀彦」のため書きで送ってるんですが、そういう形で送っているところは何人かいらっしゃるんですか。

市長： 市内には2人しかいませんけども、市外には何人かいます。

記者： それは、自分の考えと近いとか、これまでのつき合いの中でということなんですか。

市長： そうですね。特に一緒にマニフェスト運動なんかをやってきて、志を同じくするというのは、党派を問わず送ったりしています。

記者： やはりそれは……、その方は、僕がたまたま見たのは維新の方だったんですけれども……、多分、維新だったかな。

市長： あれっ、それは多分……。いや、ちょっとごめんなさい。

記者： たまたま、市長が今までおつき合いのあるような政党ではなかったような気がしたんですけれども、いわゆる中学校給食をやりたいという形の人で。

市長： ああ、はいはい。はい。

記者： あの方は、多分、維新でしたかね。

市長： そうですよ、はい。ですから、そういう意味では党派を関係なく、自民党の方にも送っていますし。はい。

記者： すみませぬ、選挙で。投票率がやはり非常に低いということで、これはさすがに今後……、一応、今の段階では、やっぱり川崎市は若い世代が多いということで、そういった世代が自分の町の市政に関心を持たないということは、極めて、今後成長する都市にとっては厳しいことだと思うんですけど、今後、若い世代が市政に関して関心を持って選挙権を行使するという行為に至るまで、今後の対応、対策ということは、何かお考えになっていることってありますか。

市長： いや、これから本気でもって考えていかなきゃいけないと思っていまして、まさにこれは危機だと思っています。これから18歳の年齢、選挙権の引き下げの話

を契機として、本当に国民総ぐるみでそれは盛り上げていかなくちやいけないと思っているんですけど、実際に今、成人している大人が子どもたちに、投票する重要さをちゃんと伝えられていないということが本当に危機だと思っているんです。ですから、あらゆる知恵を総動員して、色々な方を巻き込んで、これから挑戦していきたいというふうに思っています。

(中学生死亡事件について)

記者： すみません、今日の午前中の関係で。今日、中1の殺害の関係であったんですが、事務方から、今後は中間報告では被害者のほうについての検証を主にやってきたが、今後は加害者のほうについても、事件背景等まで踏み込むかはちょっとわからないんですが、そういった形まで言及していくというような発言、説明があったんですけど、それについて、ちょっと所感をお願いしたいんですけど。

市長： 加害者側の情報というのは極めて少ないです。それは、捜査の関係からということでありますけれども、ただ、一方で、慎重にはありますけれども、加害者側のこともしっかりと検証していかないと、今後の対策というのにも不十分ではないかという意見もありますし、そういったところをしっかりとやっていきたいというふうに思っています。

記者： わかりました。

あと、すみません、それに関連して。要は殺害現場の話なんですけど、そろそろ、枯れた花とか、お菓子ですとか、そういったものも随分多くて、この間、私が行ったときには、よく墓地にある線香台の、石の本当に重いものがあったりして、それで、あとは、多分遺族の許可なく上村くんの写真を、訪れた参拝者というんですかね、人たちに渡すという作業まで、ちょっと、一般市民の方がやってらっしゃっていて、そろそろ、献花台を設置しないなら設置しないで撤去しないと、そろそろこの周辺の治安上の問題とか、あとは管理している味の素さんも結構困っていると思うんですけど、その辺について、今後どうするかというのはいつ。ありますか。

市長： 2カ月とはいえ、本当に今も献花に訪れる方々が全国からいらっしゃって、献花についてもどうしていくかということについて、様々な意見がこれまでもずっと寄せられております。色々な人たちの心情を勘案していかなければならないというふうに思っておりますので、慎重に対応を考えていきたいというふうに思っています。

記者： 今すぐにどうということではないんですね。

市長： そうですね。

(ワーク・ライフ・バランスについて)

幹事社： 全然、やわらかい話なんですけど、もうゴールデンウイークが近くなっていますけど、市長はゴールデンウイークをどういう具合にお過ごしになられる予定でしょうか。

市長： いや、特に……、家にいますが。特に旅行等の予定もありませんし、はい。

幹事社： 政府が、働き方を朝型にしませんかということの音頭をとっていて、その背景には働き過ぎということもあると思うんですけども、それで、休みはちゃんと休みましょうということもあって、市長は非常にお忙しい中で3人のお子さんを子育てされていると思うので、ゴールデンウイークぐらいゆっくりお子さまと遊ばれたりするのかなとも思ったんですけど、こういう働き方の見直し、特別職の市長というのは特別な存在なので、なかなか難しいと思うんですけど、ただ、市民の代表であるところの市長の働き方とか休暇のとり方というのは、市民の範になる部分もあると思うんですけど、それでちょっとお伺いしてみたんですけども。

市長： なるほど。あれっ、これはこの前の記者会見で言わなかったですかね。ワーク・ライフ・バランスの話というのは、庁内でもしっかりやっていかなきゃいけないということで、この前の定例局長会議のときに、働き方の話であるとか、あるいは休暇の、例えば育休だとかというのをしっかりとって、ちゃんととるという雰囲気づくりを、それぞれの局長たちに率先してそういうものがとれる環境づくりに努めてもらいたいということで、あえて私から申しました。これは、市役所がよくなればいいというよりも、そういうムードを色々な企業の皆さんだとかでつくり上げていかなきゃいけないと思いますので、その1つとして、市役所もしっかりやると。

幹事社： なかなか、この間の人事でも女性の管理職が、目標としているところにもうちょっとというところもあるんですけども、今、市長がおっしゃっているのは、ワーク・ライフ・バランスと、女性がいかに働いていけるかということと密接な関係があると思いますが、やっぱり、とりわけ市長はお若い世代で、かつ3人の子育てをしているので、子どもを育てるなら川崎市ということであるならば、市長が積極的にお休みをとられてみるというのも、1つの……。

市長： ありがとうございます。

幹事社： ええ、あり方なんじゃないかなと思うんですけど。

市長： はい。

幹事社： 市長ご自身として難しい部分はあると思うんですけども、どうやってご自

身のワーク・ライフ・バランスを実現させていこうと思っているか。

市長： そうですね、それも課題だと思いますけど、量的な部分も必要だと思うんですが、一方で質的改革をみずから今やっているところですので。ご心配ありがとうございます。

幹事社： いえ、すみません。

各社さん、ほか、ありますか。

司会： よろしいですか。はい。

それでは、以上をもちまして市長記者会見を終了させていただきます。ありがとうございました。

(以上)

この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理したうえで掲載しています。

(お問い合わせ) 川崎市役所総務局秘書部報道担当

電話番号：044(200)2355